

科学研究費助成事業（若手研究（S））研究進捗評価

課題番号	20676008	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	外洋における異常波発生要因特定のための観測研究	研究代表者 (所属・職)	早稲田 卓爾（東京大学・大学院 新領域創成科学研究科・准教授）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、外洋における風、海流、波の同時モニタリングデータより、異常波の発生メカニズムをモデル化し、異常波発生現象と比較することによりモデルの妥当性を検証するものであり、そのオリジナリティと有用性は十分に高い。現在までに有用なサンプルの集積が行われており、それに基づくモデル化も着実に進行していると認められる。</p> <p>漂流ブイによるモニタリングは、厳しい自然条件下では困難を伴うが、研究代表者らの努力による改善も行われており、現実的な対応が図られている。</p> <p>本研究の遂行に伴い、より国際的な観測協力体制の構築に向けての貴重な観測例の取得及びモデルの構築が大いに期待できる。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	<p>本研究は、外洋域における海難の発生原因の一つと考えられる特異巨大波浪（フリーク波）を観測する装置の開発と観測実施、そして観測データに基づくフリーク波のスペクトルモデル開発とその実用化に向けた研究であり、その重要性は高く評価できる。</p> <p>GPSを用いた波浪観測漂流ブイの開発も順調に進み、荒天による観測ブイの破損もあったが、着実に実海域での長期にわたる観測も実施され、フリーク波と考えられる貴重な観測データも数例観測された。また、観測データに基づいたフリーク波の波浪モデル開発や発生気象状況に関しても解析が進み、新たな知見も得られており、フリーク波の波浪モデル開発とその実用化に向けた応用研究も順調に進んだと評価できる。</p> <p>今後、これらの観測データに基づいた研究継続により、フリーク波の発生メカニズムの理論解明とより理論的な波浪モデルの開発がより一層進展することが期待できる。</p>
A	